



7-18-05

EXPRESS MAIL NO. EV561558560US

IFW

**TRANSMITTAL
FORM***(To be used for all correspondence
after initial filing)*

Application Number	10/762,121
Filing Date	January 20, 2004
First Named Inventor	Takami Ito
Art Unit	3643
Examiner Name	Andrea M. Valenti
Attorney Docket No.	480213.401

ENCLOSURES (check all that apply)

- | | | |
|---|--|--|
| <input type="checkbox"/> Fee Transmittal Form | <input type="checkbox"/> Drawing(s) | <input type="checkbox"/> After Allowance Communication to TC |
| <input type="checkbox"/> Fee Attached | <input type="checkbox"/> Request for Corrected Filing Receipt | <input type="checkbox"/> Appeal Communication to Board of Appeals and Interferences |
| <input type="checkbox"/> Amendment/Response | <input type="checkbox"/> Licensing-related Papers | <input type="checkbox"/> Appeal Communication to TC (<i>Appeal Notice, Brief, Reply Brief</i>) |
| <input type="checkbox"/> After Final | <input type="checkbox"/> Petition | <input type="checkbox"/> Proprietary Information |
| <input type="checkbox"/> Affidavits/declaration(s) | <input type="checkbox"/> Petition to Convert to a Provisional Application | <input type="checkbox"/> Status Letter |
| <input type="checkbox"/> Extension of Time Request | <input type="checkbox"/> Power of Attorney, Revocation, Change of Correspondence Address | <input checked="" type="checkbox"/> Return Receipt Postcard |
| <input type="checkbox"/> Express Abandonment Request | <input type="checkbox"/> Declaration | <input type="checkbox"/> Other Enclosure(s) (<i>please identify below</i>): |
| <input type="checkbox"/> Information Disclosure Statement; Form PTO-1449 | <input type="checkbox"/> Statement under 37 CFR 3.73(b) | _____ |
| <input type="checkbox"/> Cited References | <input type="checkbox"/> Terminal Disclaimer | _____ |
| <input checked="" type="checkbox"/> Certified Copy of Priority Document(s) | <input type="checkbox"/> Request for Refund | _____ |
| <input type="checkbox"/> Response to Missing Parts under 37 C.F.R. 1.52 or 1.53 | <input type="checkbox"/> CD, Number of CD(s) _____ | _____ |
| <input type="checkbox"/> Response to Missing Parts/Incomplete Application | <input type="checkbox"/> Landscape Table on CD | _____ |

Remarks**SIGNATURE OF APPLICANT, ATTORNEY, OR AGENT**

Firm Name	Seed Intellectual Property Law Group PLLC	Customer Number	00500
Signature			
Printed Name	Karl R. Hermanns		
Date	July 15, 2005	Reg. No.	33,507

CERTIFICATE OF TRANSMISSION/MAILING

I hereby certify that this correspondence is being facsimile transmitted to the USPTO or deposited with the United States Postal Service with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450 on the date shown below.

Signature		
Typed or printed name		Date:

This collection of information is required by 37 CFR 1.5. The information is required to obtain or retain a benefit by the public which is to file (and by the USPTO to process) an application. Confidentiality is governed by 35 U.S.C. 122 and 37 CFR 1.11 and 1.14. This collection is estimated to take 2 hours to complete, including gathering, preparing, and submitting the completed application form to the USPTO. Time will vary depending upon the individual case. Any comments on the amount of time you require to complete this form and/or suggestions for reducing this burden, should be sent to the Chief Information Officer, U.S. Patent and Trademark Office, U.S. Department of Commerce, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450. DO NOT SEND FEES OR COMPLETED FORMS TO THIS ADDRESS. SEND TO: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

611407_1.DOC

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2003年 3月10日

出 願 番 号
Application Number: 特願2003-063448

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2003-063448

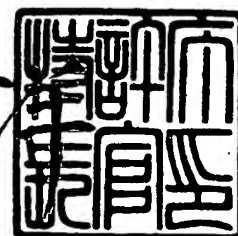
願 人
Applicant(s): 伊藤 孝己

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2005年 7月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願

【整理番号】 03012H

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A01G 9/02

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府茨木市春日 4 丁目 5 番 1 1 号

 【氏名】 伊藤 孝己

【特許出願人】

 【識別番号】 390004282

 【氏名又は名称】 伊藤 孝己

【代理人】

 【識別番号】 100084375

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 板谷 康夫

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 特願2002-265960

 【出願日】 平成14年 9月11日

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 009531

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 花飾用部材

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 下部が地中に埋設され、又は固定具によって固定され、上方に向けて立設された支持柱により立設支持される、草花を植栽してなる植木鉢を収納し、又は草花を直接に植栽する花飾用部材において、

上端部に植木鉢収納用の開口を有し、下端部に前記支持柱が貫通する貫通口を有する壺状の花飾部本体を備え、

前記貫通口を介して前記支持柱を花飾部本体内部に挿入した状態で、支持柱の周囲に転倒防止材を充填又は装着することで花飾部本体を立設支持することを特徴とする花飾用部材。

【請求項 2】 前記転倒防止材は、

前記支持柱を貫通させる貫通穴を上下方向に有し、前記花飾部本体内部で支持柱に嵌め込まれ、該花飾部本体の傾きを所定範囲内に規制するブロック体と、

前記ブロック体と前記花飾部本体又は前記支持柱との隙間に充填される緩衝材とを有して成ることを特徴とする請求項 1 に記載の花飾用部材。

【請求項 3】 前記転倒防止材に代えて、前記花飾部本体は、前記貫通口から上方に向けて一体に立設された中空状の筒部を有し、この筒部に前記支持柱を挿入した状態で花飾部本体を立設支持することを特徴とする請求項 1 に記載の花飾用部材。

【請求項 4】 前記花飾部本体と地表面との間に、該花飾部本体の高さ位置を調整するための高さ調整具を介在させたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の花飾用部材。

【請求項 5】 前記花飾部本体の下端部に一体的に取り付けられる台座をさらに有し、

前記台座は、花飾部本体の貫通口と連通し、前記支持柱が挿通する中空状の空間を有していることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の花飾用部材。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】**【発明の属する技術分野】**

本発明は、草花を植栽してなる植木鉢を収納する花飾用部材に関するものである。

【 0 0 0 2 】**【従来の技術】**

従来から、植木鉢を収納する花飾用部材として、様々な形態の部材が知られている。一例を挙げれば、壺状の花飾部本体を有し、その本体上端部に設けられた開口に植木鉢を収納するように構成された花飾用部材がある。この種の花飾用部材は、壺状に形成された花飾部本体に様々なデザイン処理を施すことにより、植木鉢を装飾すると共に、植木鉢を所望の高さで支持する。花飾用部材の設置は、花飾部本体の下部が地中に埋め込まれることにより成されている。

【 0 0 0 3 】

また、植木鉢を収納する円筒部材と、この円筒部材が挿入される丸穴が形成された複数層に積重ねられた台板とによって構成される植木鉢台が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。さらに、鉢受け台が取付けられた支柱を立設支持する台座の下端部に鋼板を嵌着し、台の低重心化を図って安定性を高めた植木鉢支持台も知られている（例えば、特許文献 2 参照）。

【 0 0 0 4 】**【特許文献 1】**

特開平 1 1 - 2 6 6 7 0 6 号公報

【特許文献 2】

実開昭 6 1 - 1 0 8 1 6 4 号公報

【 0 0 0 5 】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記花飾用部材にあつては、花飾部本体の下部が地中に埋設されているものの、花飾部本体の上端部に重量物である植木鉢を収納する構成であるので、花飾用部材の重心が高くなり、花飾部本体に外力が加えられたときは、花飾用部材が横揺れ転倒する虞れがある。また、花飾部本体の下部が地中に埋設

されているので、デザイン処理が施された花飾部本体の全体を見せることができず、壺状の優れた美観を活かしているとは言えない。また、特許文献1に示される植木鉢台は、地面等に対して固定されていないので、転倒や位置ずれを起こす虞れがある。さらに、特許文献2に示される植木鉢支持台は、植木鉢を装飾する機能を備えておらず、優れた美観を有しているとは言えない。

【0006】

本発明は、上述した問題点を解決するためになされたものであり、転倒の虞れがなく、美観に優れた花飾用部材を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために請求項1の発明は、下部が地中に埋設され、又は固定具によって固定され、上方に向けて立設された支持柱により立設支持される、草花を植栽してなる植木鉢を収納し、又は草花を直接に植栽する花飾用部材において、上端部に植木鉢収納用の開口を有し、下端部に前記支持柱が貫通する貫通口を有する壺状の花飾部本体を備え、前記貫通口を介して前記支持柱を花飾部本体内部に挿入した状態で、支持柱の周囲に転倒防止材を充填又は装着することで花飾部本体を立設支持するものである。

【0008】

この構成においては、花飾部本体は、支持柱及び転倒防止材によって立設支持され、花飾用部材の横揺れ転倒や位置ずれが防止される。また、転倒防止材が花飾部本体内部に充填又は装着されることにより花飾部本体の低重心化を図ることができ、花飾部本体の安定性を高めることができる。さらに、花飾部本体は、壺状に形成され、その形状、模様、色彩等において、様々なデザイン処理を施すことができる。

【0009】

請求項2の発明は、請求項1に記載の花飾用部材において、転倒防止材は、前記支持柱を貫通させる貫通穴を上下方向に有し、前記花飾部本体内部で支持柱に嵌め込まれ、該花飾部本体の傾きを所定範囲内に規制するブロック体と、前記ブロック体と前記花飾部本体又は前記支持柱との隙間に充填される緩衝材とを有し

て成るものである。

【 0 0 1 0 】

この構成においては、花飾部本体に外力が加えられたとき、緩衝材が該外力を吸収する。また、緩衝材が吸収できない大きな外力が加えられたときであっても、ブロック体によって花飾部本体の傾きを規制することができ、花飾用部材の横揺れ転倒を防止することができる。

【 0 0 1 1 】

請求項 3 の発明は、請求項 1 に記載の花飾用部材において、前記転倒防止材に代えて、前記花飾部本体は、前記貫通口から上方に向けて一体に立設された中空状の筒部を有し、この筒部に前記支持柱を挿入した状態で花飾部本体を立設支持するものである。

【 0 0 1 2 】

この構成においては、支持柱は花飾部本体の貫通口から筒部に挿入される。花飾部本体は支持柱及び筒部によって立設支持され、花飾用部材の横揺れ転倒や位置ずれが防止される。花飾部本体を立設支持させる際、必ずしも転倒防止材等を充填又は装着する必要はないので、容易に花飾部本体を立設支持させることができる。

【 0 0 1 3 】

請求項 4 の発明は、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の花飾用部材において、花飾部本体と地表面との間に、該花飾部本体の高さ位置を調整するための高さ調整具を介在させたものである。

【 0 0 1 4 】

この構成においては、高さ調整具によって花飾部本体を所望の高さ位置に調整することができる。

【 0 0 1 5 】

請求項 5 の発明は、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の花飾用部材において、前記花飾部本体の下端部に一体的に取り付けられる台座をさらに有し、前記台座は、花飾部本体の貫通口と連通し、前記支持柱が挿通する中空状の空間を有するものである。

【 0 0 1 6 】

この構成においては、花飾部本体に台座を取り付けることにより、花飾部本体と台座が、支持柱等によって一体的に立設支持される。

【 0 0 1 7 】**【発明の実施の形態】****(実施形態 1)**

本発明の一実施形態に係る花飾用部材について、図面を参照して説明する。図 1 は、草花を植栽してなる植木鉢を収納する花飾用部材を示している。花飾用部材 1 は、地面 G L から上方に向けて立設される支持柱 2 と、植木鉢 8 を収納する花飾部本体 3 と、支持柱 2 の周囲に充填され、花飾部本体 3 の横揺れ転倒を防止する充填材（転倒防止材） 4 とを備えている。

【 0 0 1 8 】

支持柱 2 は、例えば、鉄パイプ等によって成り、地面 G L に立設される。支持柱 2 の下部 2 a は、コンクリート等により形成された基礎部材 5 と結合され、小石 6 が敷かれた地中 G に埋設され、これにより、支持柱 2 が地面 G L から上方に向けて立設される。

【 0 0 1 9 】

花飾部本体 3 は、壺状に形成され、その形状、模様、色彩等において様々なデザイン処理が施され、上端部に設けられた開口 3 a に収納された植木鉢 8 を装飾する。花飾部本体 3 の下端部には、支持柱 2 を貫通させるための貫通口 3 b が形成されている。従って、図 2 に示されるように、貫通口 3 b を支持柱 2 に位置合わせして花飾部本体 3 を矢印方向に挿入することにより、花飾部本体 3 は支持柱 2 に装着される。

【 0 0 2 0 】

花飾部本体 3 の内部には、図 3 に示されるように、石（砂利）、砂又はモルタル等から成る充填材 4 が支持柱 2 の周囲に充填される。これにより、花飾部本体 3 は支持柱 2 及び充填材 4 によって立設支持され、花飾部本体 3 の横揺れ転倒が防止される。

【 0 0 2 1 】

充填材 4 の上面 4 a には、植木鉢 8 に供給する水 W を貯めておく水受皿 7 が載置されている。植木鉢 8 は、花飾部本体 3 上端部の開口 3 a に収納され、必要に応じて差し換え可能とされる。植木鉢 8 には、培養土 C が入れられ、その上部に草花 F が植栽される。また、培養土 C の土中から水受皿 7 にかけて吸水布 9 が垂下されている。吸水布 9 は、不織布等の吸水性素材から成り、毛細管現象により、水受皿 7 から水 W を吸い上げて培養土 C に給水する。なお、植木鉢 8 と水受皿 7 は別部材とする必要はなく、植木鉢 8 の底面から所定の高さに仕切り板を設け、仕切り板の下側の空間を水受皿 7 として使用してもよい。

【 0 0 2 2 】

なお、水受皿 7 には、地中 G より支持柱 2 に沿って花飾部本体 3 内に導かれた灌水チューブ T の先端部が装着され、灌水チューブ T によって水が水受皿 7 に灌水される。なお、灌水チューブ T は、支持柱 2 の側面に予め形成された横孔より支持柱 2 内部を通して花飾部本体 3 に導かれるように構成してもよい。また、灌水チューブ T を、植木鉢 8 の上部まで延長して、植木鉢 8 に直接灌水するように構成してもよい。また、植木鉢 8 に草花を植栽したものに限られず、花飾部本体 3 に直接草花を植栽してもよい。

【 0 0 2 3 】

なお、花飾用部材 1 は、図 4 (a) に示されるように、充填材を支持柱の上端より若干低い位置まで充填し、その上に、図 4 (b) に示されるストッパ 4 1 を装着するように構成しても構わない。ストッパ 4 1 は、支持柱が貫通する貫通穴 4 1 a を有し、その幅寸法 W S は、花飾部本体 3 の内径に対して若干（例えば、2 c m 程度）小さいものとされる。ストッパ 4 1 の周縁 4 1 b が内壁 3 c に当接することにより、花飾部本体 3 の傾きが制限され、横揺れ転倒が防止される。

【 0 0 2 4 】

上記のように構成された花飾用部材 1 によれば、支持柱 2 が地中 G に埋設され、花飾部本体 3 が支持柱 2 及び充填材 4 によって立設支持されるので、花飾用部材 1 の転倒や位置ずれを防止することができる。また、充填材 4 が花飾部本体 3 内部に充填されることにより花飾部本体 3 の低重心化を図ることができ、花飾部本体 3 の安定性を高めることができる。さらに、花飾部本体 3 は、壺状に形成さ

れているので、それ自体で優れた美的外観を呈する。ここで、灌水チューブ T は、支持柱 2 と共に花飾部本体 3 内に配設されているので、花飾用部材 1 の優れた外観が損なわれず美的である。

【 0 0 2 5 】

(実施形態 2)

本発明の別の実施形態に係る花飾用部材について、図 5 及び図 6 を参照して説明する。花飾用部材 1 0 は、花飾部本体 3 の傾きを規制するブロック体 1 1 と、ブロック体 1 1 の周囲に充填される緩衝材 1 2 とによって、花飾部本体 3 を立設支持する点で花飾用部材 1 と相違する（図 5 においては、水受皿 7、植木鉢 8 等の図示を省略している）。

【 0 0 2 6 】

ブロック体 1 1 は、例えば、コンクリート又はモルタル等によって成形され、支持柱 2 を貫通させる貫通穴 1 1 a を上下方向に有し、支持柱 2 に装着される。ここで、貫通穴 1 1 a の穴径 D は、支持柱の外径より若干大きいものとされ、ブロック体 1 1 が支持柱 2 に嵌め込まれたとき、支持柱 2 とブロック体 1 1 の間には隙間が形成される。また、ブロック体 1 1 の幅寸法 W B は、花飾部本体 3 の内径に対して若干（例えば、2 c m 程度）小さいものとされ、これにより、ブロック体 1 1 と花飾部本体 3 の間にも隙間が形成される。

【 0 0 2 7 】

緩衝材 1 2 は、砂、発泡樹脂等のクッション性を有する素材から成り、上述した支持柱 2 とブロック体 1 1 の間、又はブロック体 1 1 と花飾部本体 3 の間に形成された隙間に充填されている。花飾部本体 3 は支持柱 2、ブロック体 1 1 及び緩衝材 1 2 によって立設支持され、花飾部本体 3 の横揺れ転倒及び破損が防止される。すなわち、花飾部本体 3 に外力が加えられ花飾部本体 3 が僅かに傾斜したとき、緩衝材 1 2 が花飾部本体 3 に加えられた外力を吸収し、花飾部本体 3 の破損を防止する。このとき、ブロック体 1 1 の周縁部 1 1 b は花飾部本体 3 の内壁 3 c に当接することなく、花飾部本体 3 の若干の傾斜を許容する。そして、花飾部本体 3 に大きな外力が加えられ、花飾部本体 3 の傾斜が大きくなると、周縁部 1 1 b が内壁 3 c に当接し、花飾部本体 3 の傾きが制限される。

【0028】

上記のように構成された花飾用部材10によれば、緩衝材12が花飾部本体3に加えられた外力を吸収し、ブロック体11が花飾部本体3の傾きを規制するので、花飾部本体3に大きな外力が加えられた場合であっても、花飾部本体3の破損及び横揺れ転倒を防止することができる。

【0029】**(実施形態3)**

本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材について、図7を参照して説明する。花飾用部材20は、花飾部本体3の高さ位置を周辺の植物P等の高さに合わせて調整するための高さ調整具21を備えた点で、花飾用部材1、10とは相違する（図7においては、水受皿7、植木鉢8等の図示を省略している）。高さ調整具21は、花飾部本体3と地面GLとの間に介在される。花飾用部材20によれば、高さ調整具21の枚数を増減することによって、花飾部本体3の高さ調整を容易に行うことができる。

【0030】**(実施形態4)**

本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材について、図9、図10及び図11を参照して説明する。花飾部本体103は、該本体と一体に内方中心部に形成された中空状の筒部140を有しており、筒部140に支持柱2を挿入させることにより立設支持される。この実施形態においては、前述の実施形態で用いたような転倒防止材4等を必ずしも必要としない。

【0031】

花飾部本体103は、例えば、FRP（fiber reinforced plastics）を用いて、図10（a）に示されるような開口3a、貫通口3b及び筒部140を有する壺状に成形される。また、図10（b）に示されるように、FRPを開口3a及び貫通口3bを有する壺状に成形し、これに筒部140を固着することにより形成してもよい。

【0032】

この実施形態においては、筒部140の補強のためにリブ状の補強材141が

設けられている。補強材 141 は、筒部 140 と花飾部本体 103 の内壁 3c との間に架け渡すように放射方向に固着された複数のリブ状の板により構成されている。このような補強材 141 を設けることにより、筒部 140 の強度を高めることができ、花飾用部材 100 を設置した状態で外力が加わっても花飾用部材 100 が倒れ難いものとなる。

【0033】

さらに、この実施形態においては、花飾部本体 103 の下端部 3d に、該下端部 3d を補強し、該本体の重心を下げ安定姿勢を取り得るためにコンクリート等の充填材 142 を流し込み、その上から FRP 143 を塗り固めている。充填材 142 及び FRP 143 は、花飾用部材 100 の使用状況に応じて省略しても構わない。

【0034】

花飾部本体 103 は、図 11 に示されるように、支持柱 2 を花飾部本体 103 の貫通口 3b から筒部 140 に挿入した状態で立設される。花飾部本体 103 は支持柱 2 及び筒部 140 により立設支持されるため、花飾用部材 100 の横揺れ転倒や位置ずれが防止される。また、設置する際、転倒防止材 4 等を充填又は装着する必要はないので、少ない手順で容易に花飾用部材 100 を設置することができる。

【0035】

(実施形態 5)

本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材について、図 12 を参照して説明する。花飾用部材 200 の花飾部本体 103 は、開口 3a、貫通口 3b 及び筒部 140 を有する点では実施形態 4 と同様であるが、補強材 141 等を有しない点で実施形態 4 と異なる。

【0036】

花飾部本体 103 は、支持柱 2 を筒部 140 に挿入した状態で、支持柱 2 及び筒部 140 により立設支持される。このため、花飾用部材 200 を設置する際、転倒防止材 4 等は必ずしも用いる必要はないが、本体 103 の内方で筒部 140 の外周空間に充填材 4 を充填することにより、筒部 140 を補強することができ

ると共に、花飾部本体 1 0 3 の重心を低くすることができ、花飾部本体 1 0 3 の安定性を高めることができる。

【0 0 3 7】

支持柱 2 の外径及び筒部 1 4 0 の内径は、支持柱 2 を筒部 1 4 0 に挿入し易いように適宜の寸法に作成されればよいが、支持柱 2 を筒部 1 4 0 に挿入した際、支持柱 2 と筒部 1 4 0 との間に隙間が生じるときは、この隙間に充填材 4 b を充填すればよい。これにより、花飾部本体 1 0 3 が支持柱 2 に安定して支持される。

【0 0 3 8】

(実施形態 6)

本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材について、図 1 3 を参照して説明する。花飾用部材 3 0 0 は、他の実施形態と比較して、花飾部本体 3 の下端部に台座 3 0 1 が一体的に取り付けられている点で異なる。台座 3 0 1 は、上面に花飾部本体の貫通口 3 b と連通する連通口 3 0 1 a を有しており、胴体部 3 0 1 b に支持柱 2 が挿通する中空状の空間を有している。支持柱 2 は、下部 2 a が地中 G に埋設されると共に、地上部 2 b がコンクリート等によって形成された支持部材 3 0 2 によって支持されている。花飾用部材 3 0 0 は、支持柱 2 に貫通穴 3 0 2 a を介して支持部材 3 0 2 を装着し、連通口 3 0 1 a 及び貫通口 3 b を介して花飾部本体 3 に支持柱 2 を挿入した状態で立設される。花飾用部材 3 0 0 は、花飾部本体 3 に台座 3 0 1 が取り付けられていることにより、花飾部本体 3 と台座 3 0 1 が支持柱 2 等によって一体的に立設支持される。このため、花飾用部材 3 のみならず台座 3 0 1 の横揺れ転倒や位置ずれを防止することができる。

【0 0 3 9】

なお、本発明は上記実施形態の構成に限られることなく種々の変形が可能であり、例えば、支持柱 2 は地中に埋設される形態に限られることなく、図 8 に示されるような、支持柱 2 を立設支持する支持板 3 1 と、支持板 3 1 を地面に固定する杭 3 2 とによって構成される固定具 3 0 を用いて、地面 G L に固定される形態であってもよい。さらにこの場合、支持板 3 1 が固定される土台は、地面 G L に限られることなく、別途設置された陳列台等であってもよい。また、花飾用部材

1 における転倒防止材は、充填材 4 に限られることなく、予め、合成樹脂やコンクリート等により花飾部本体 3 の内面に沿う形状に成形され、支持柱 2 を貫通させる貫通穴が設けられた部材を適用してもよい。また、花飾部本体 1 0 3 の材質及び製造方法は上記実施形態には限られない。

【 0 0 4 0 】

【発明の効果】

以上のように請求項 1 の発明によれば、支持柱が地中に埋設され、支持柱及び転倒防止材によって花飾部本体が立設支持されるので、花飾用部材の横揺れ転倒や位置ずれが防止される。また、転倒防止材を花飾部本体に充電又は装着することによって花飾部本体の低重心化を図ることができ、花飾部本体の安定性を高めることができる。さらに花飾部本体は、壺状に形成され、その全体が地上に露出しているので、花飾用部材の美観が向上する。

【 0 0 4 1 】

請求項 2 の発明によれば、緩衝材が花飾部本体に加えられた外力を吸収し、ブロック体が花飾部本体の傾きを規制するので、花飾部本体に大きな外力が加えられた場合であっても花飾部本体の破損及び横揺れ転倒を防止することができる。

【 0 0 4 2 】

請求項 3 の発明によれば、花飾用部材を設置する際、花飾部本体は支持柱及び筒部によって立設支持され、必ずしも転倒防止材等を充填又は装着する必要はないので、容易に花飾部本体を支持柱に立設支持させることができる。

【 0 0 4 3 】

請求項 4 の発明によれば、花飾部本体と地表面との間に高さ調整具を介在させているので、周囲の植物等の高さに合わせて花飾部本体の高さ調整を容易に行うことができる。

【 0 0 4 4 】

請求項 5 の発明によれば、花飾部本体に台座を取り付けることにより、花飾部本体と台座は支持柱等によって一体的に立設支持され、花飾用部材のみならず台座の横揺れ転倒や位置ずれが防止される。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施形態に係る花飾用部材の構造を示す断面図。

【図 2】 同部材の支持柱に花飾部本体が装着される様子を示した図。

【図 3】 充填材が充填された花飾用部材を示した断面図。

【図 4】 (a) は充填材の上部にストッパを装着した同部材を示した断面図であり、(b) は同ストッパの斜視図。

【図 5】 本発明の別の実施形態に係る花飾用部材の構造を示す断面図。

【図 6】 同部材に用いられるブロック体を示した斜視図。

【図 7】 本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材の構造を示す断面図。

【図 8】 同支持柱を固定する固定具を示した図。

【図 9】 (a)、(b) は本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材の花飾部本体の構造を示す平面図及び断面図。

【図 10】 (a)、(b) は、それぞれ同花飾部本体の製造方法を説明するための図。

【図 11】 同花飾用部材の構造を示す断面図。

【図 12】 本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材の構造を示す断面図。

【図 13】 本発明のさらに別の実施形態に係る花飾用部材の構造を示す断面図。

【符号の説明】

1, 100, 200, 300 花飾用部材

2 支持柱

3, 103 花飾部本体

3a 開口

3b 貫通口

4 充填材 (転倒防止材)

8 植木鉢

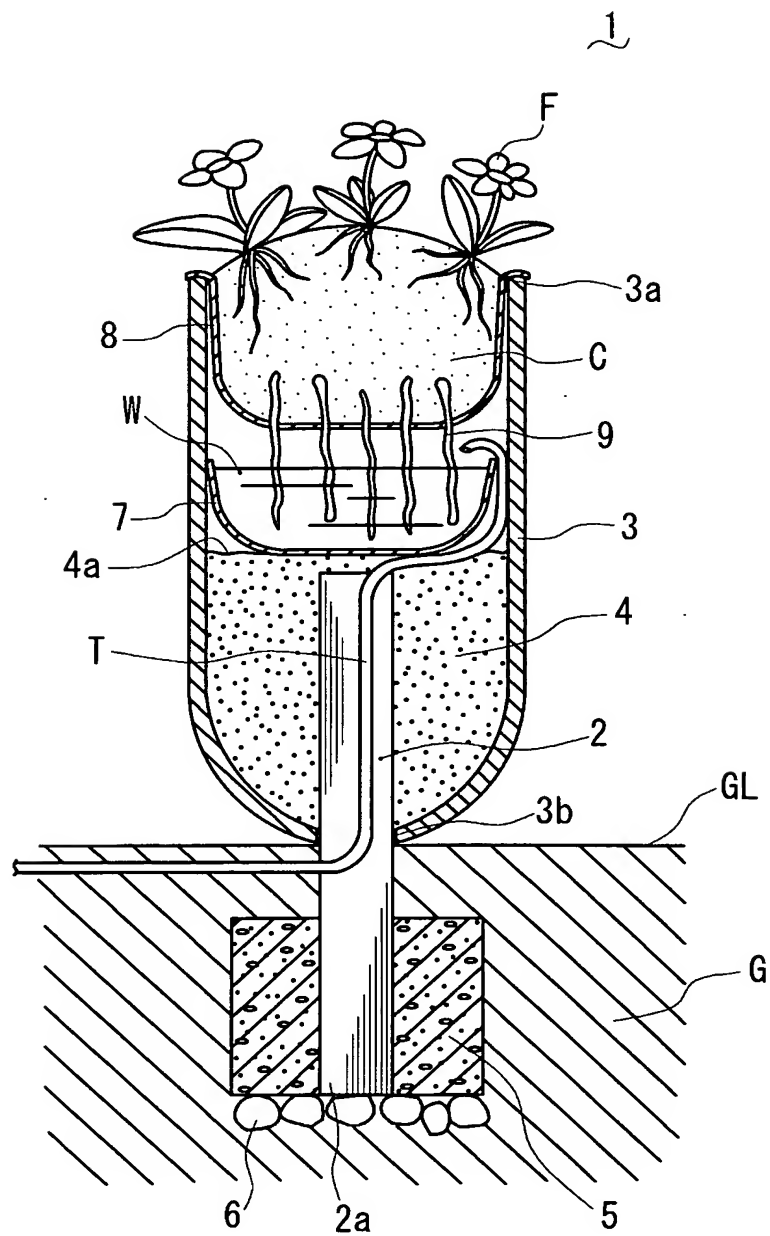
11 ブロック体 (転倒防止材)

12 緩衝材 (転倒防止材)

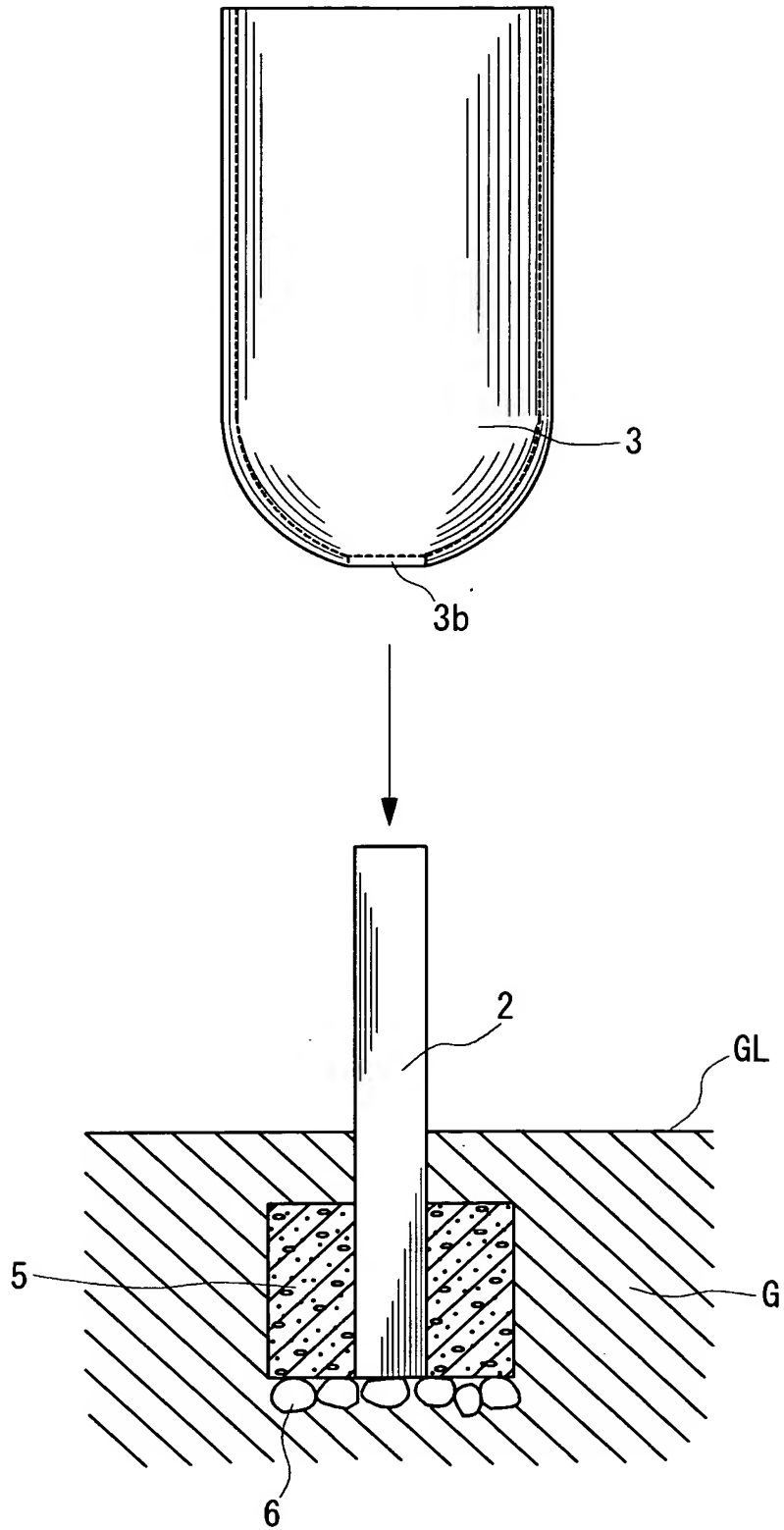
1 2 a 貫通穴
2 1 高さ調整具
3 0 固定具
1 4 0 筒部
3 0 1 台座
F 草花
G 地中
G L 地面

【書類名】 図面

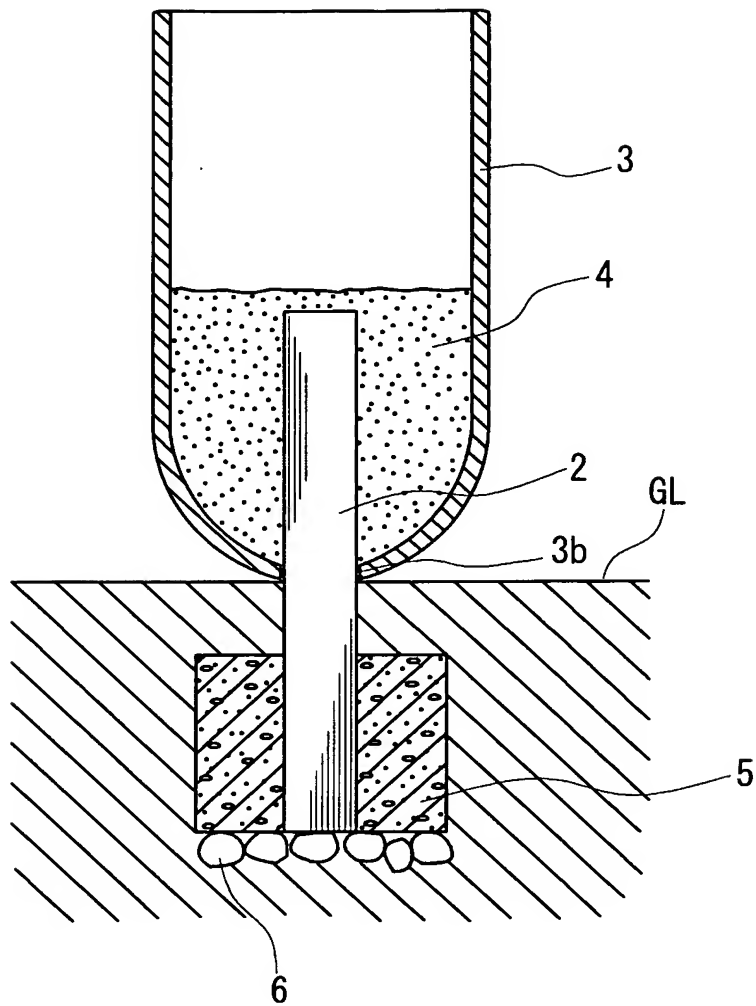
【図 1】



【図 2】

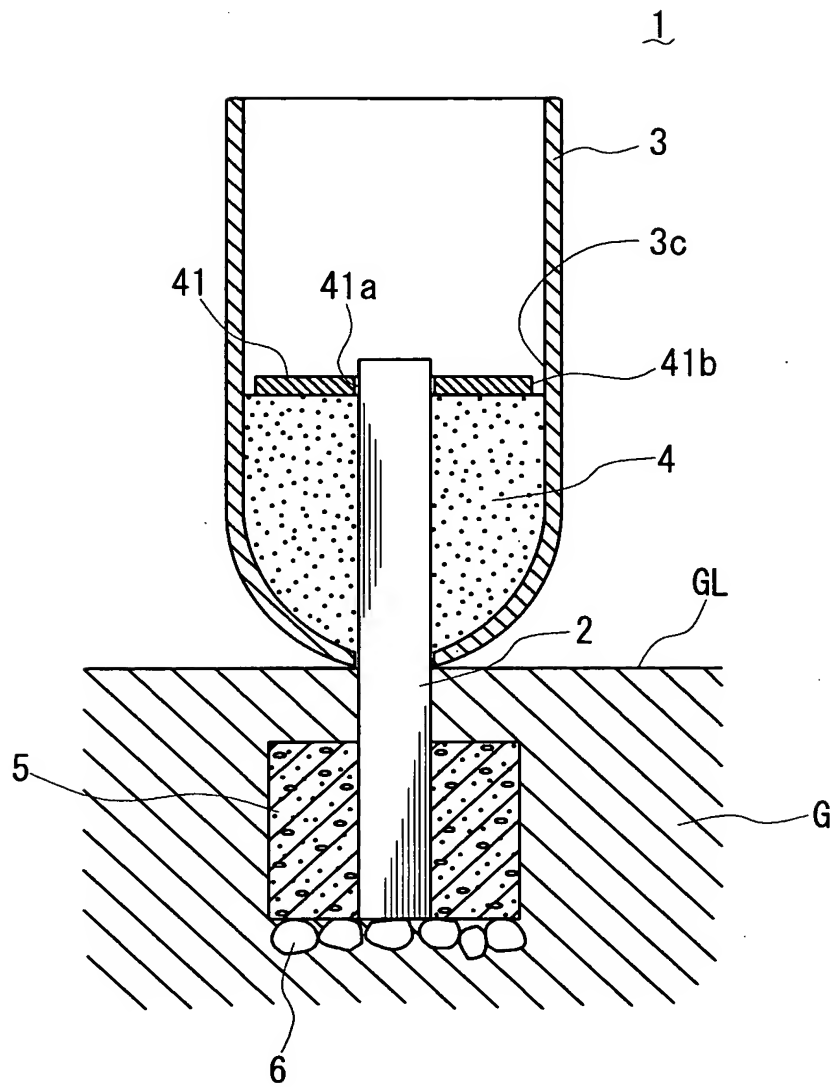


【図 3】

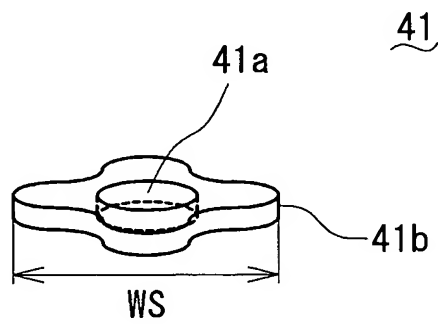


【図 4】

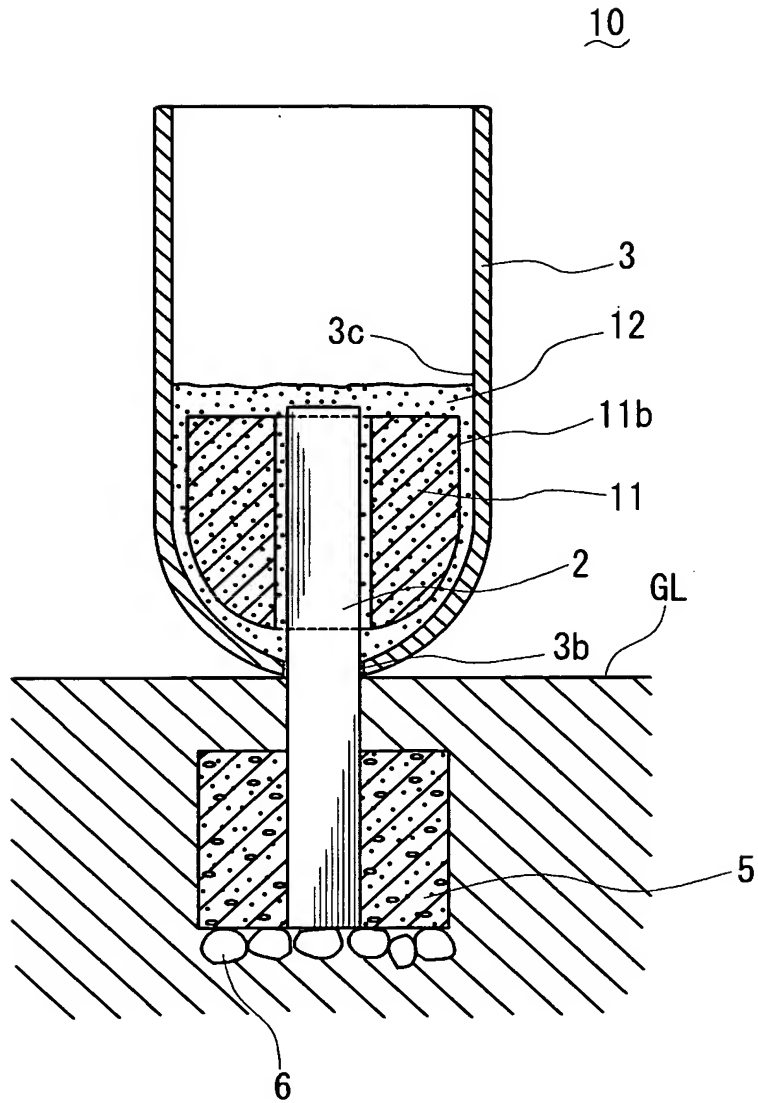
(a)



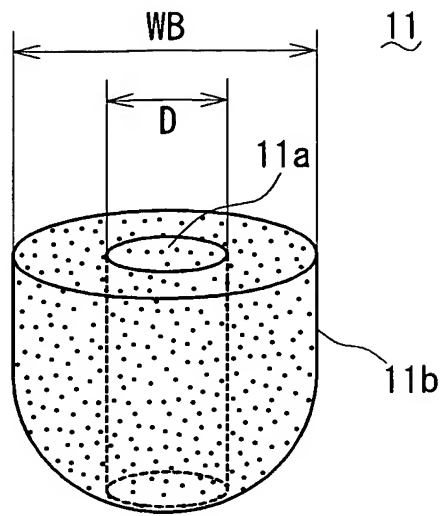
(b)



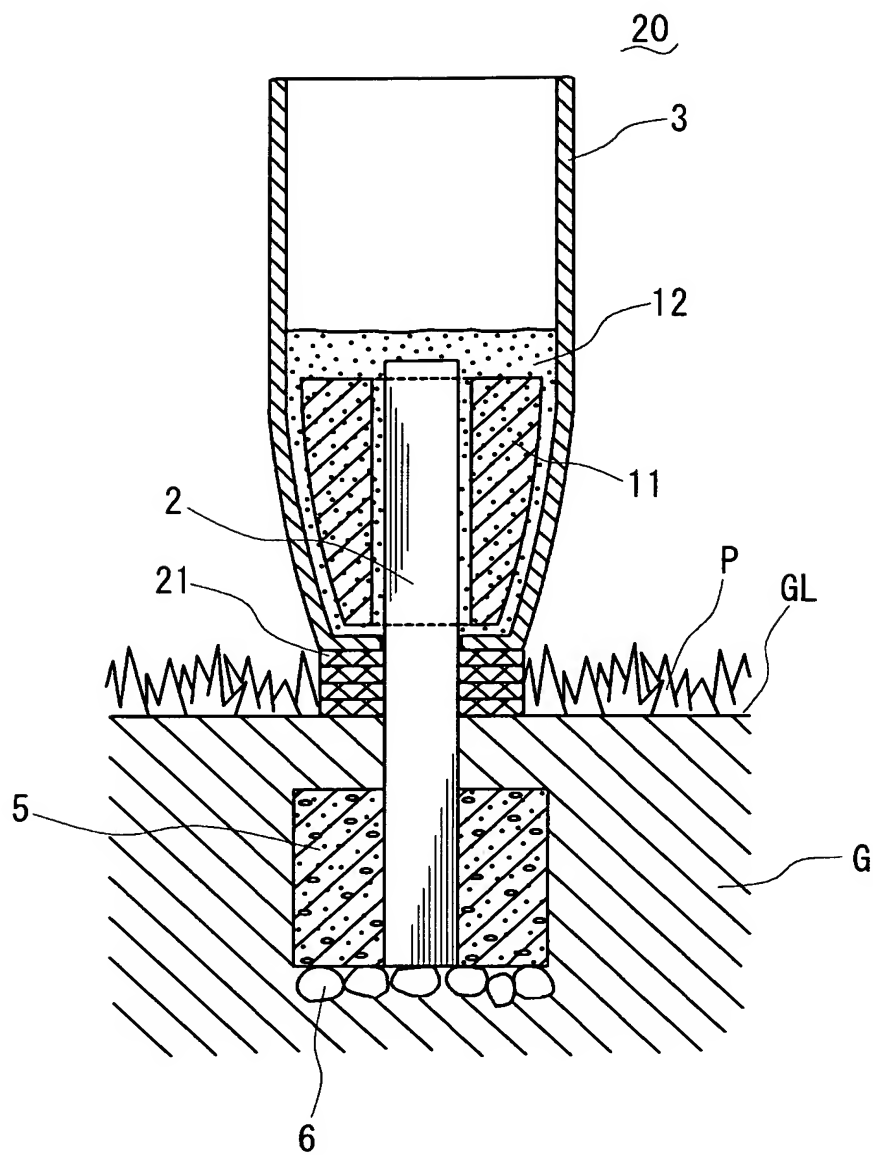
【図 5】



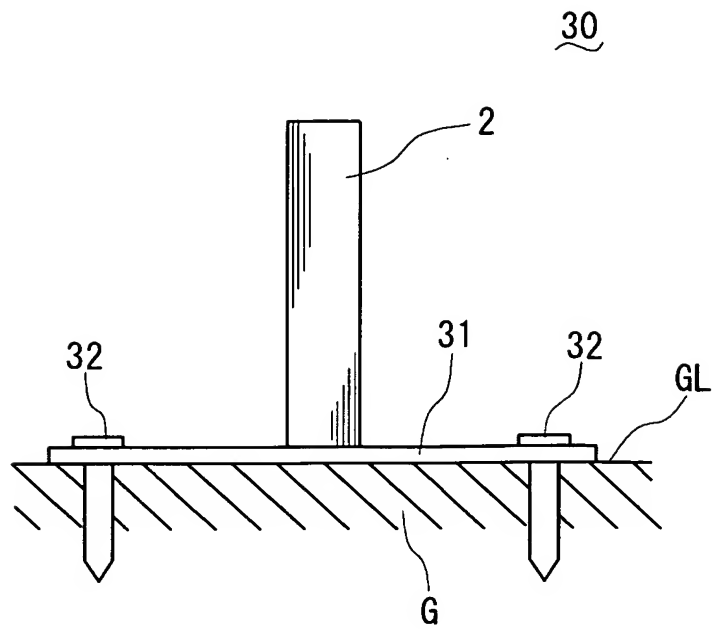
【図 6】



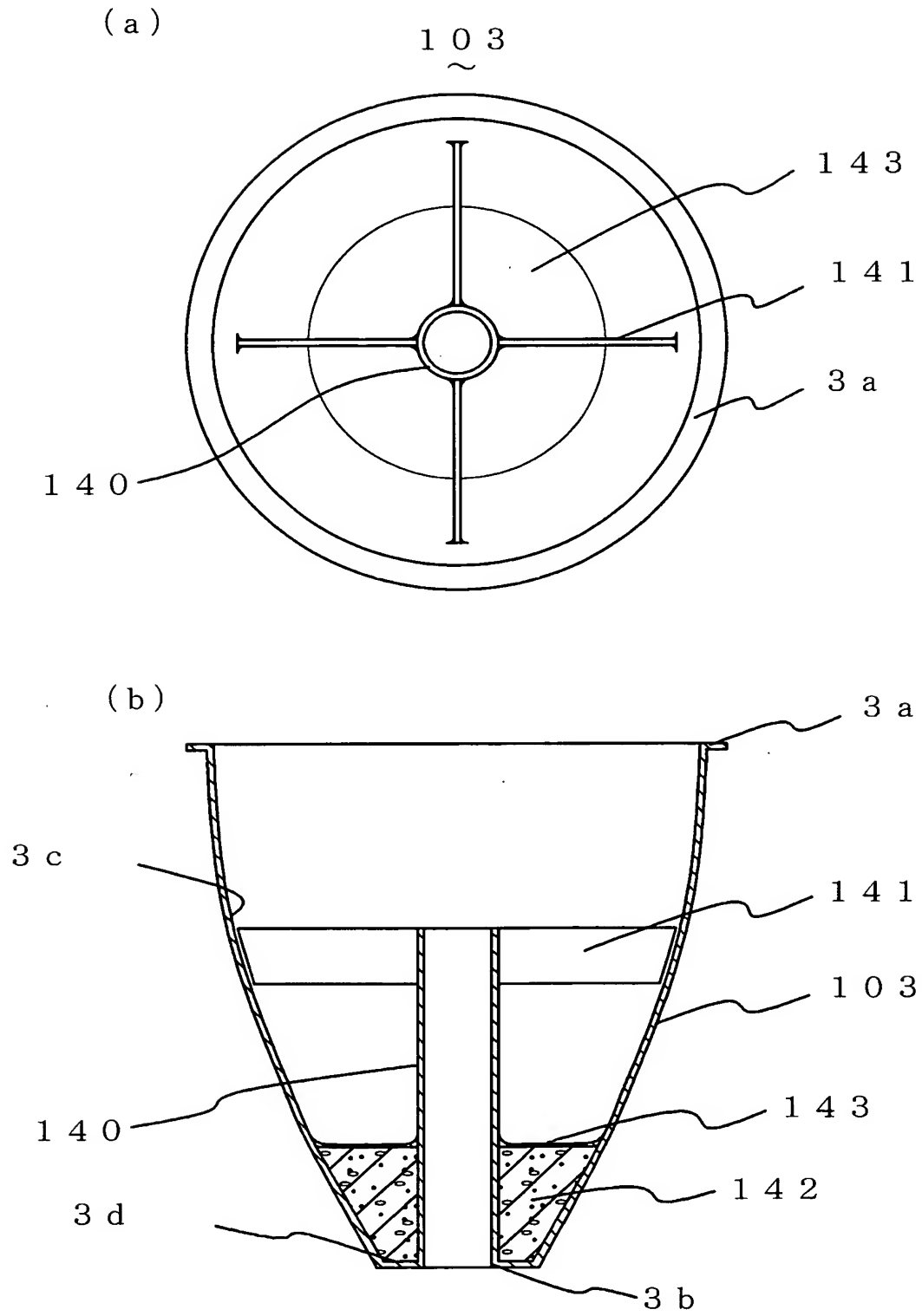
【図 7】



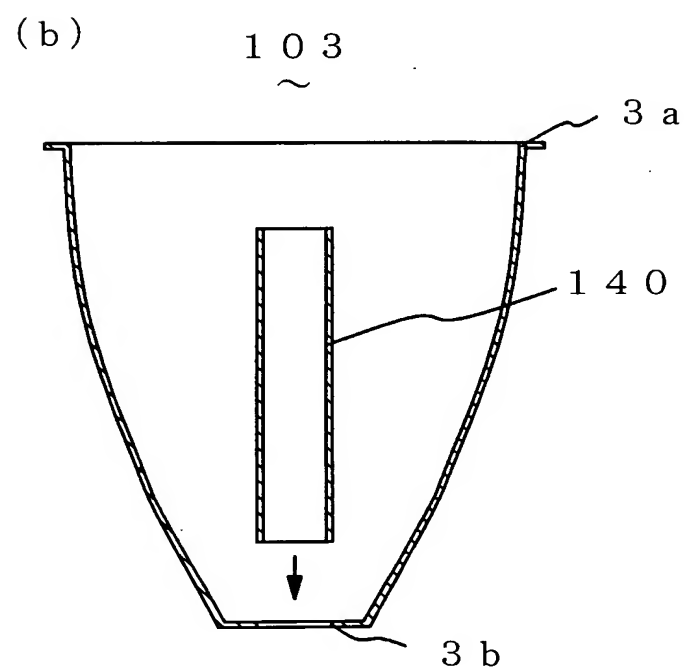
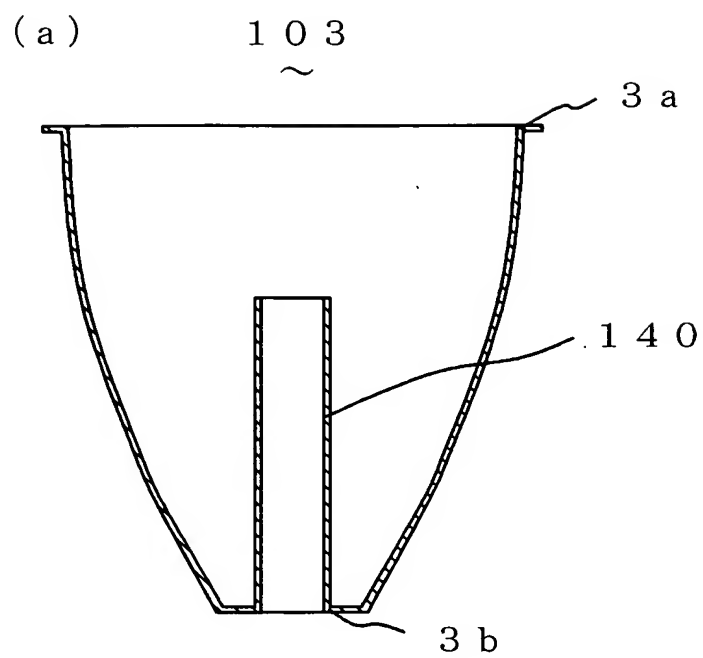
【図 8】



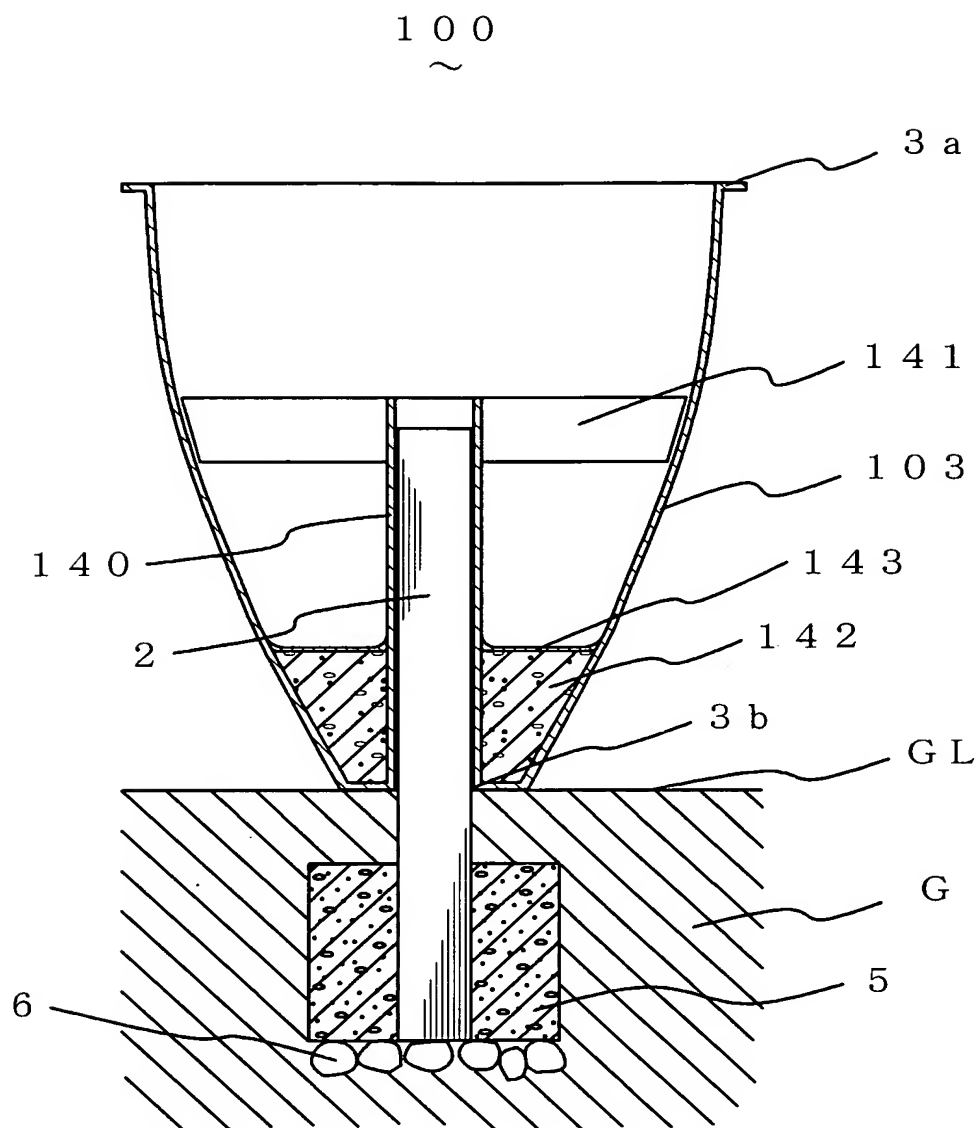
【図 9】



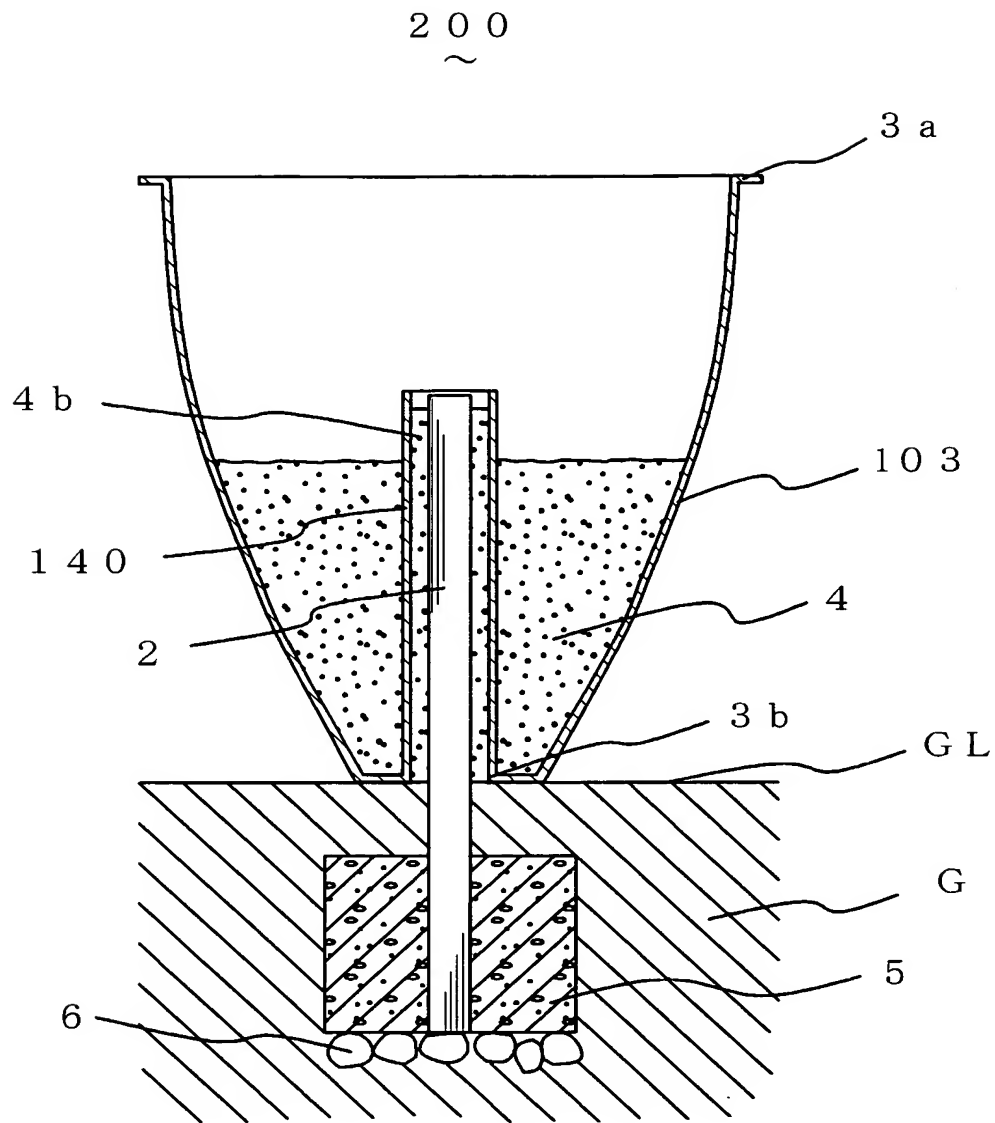
【図 10】



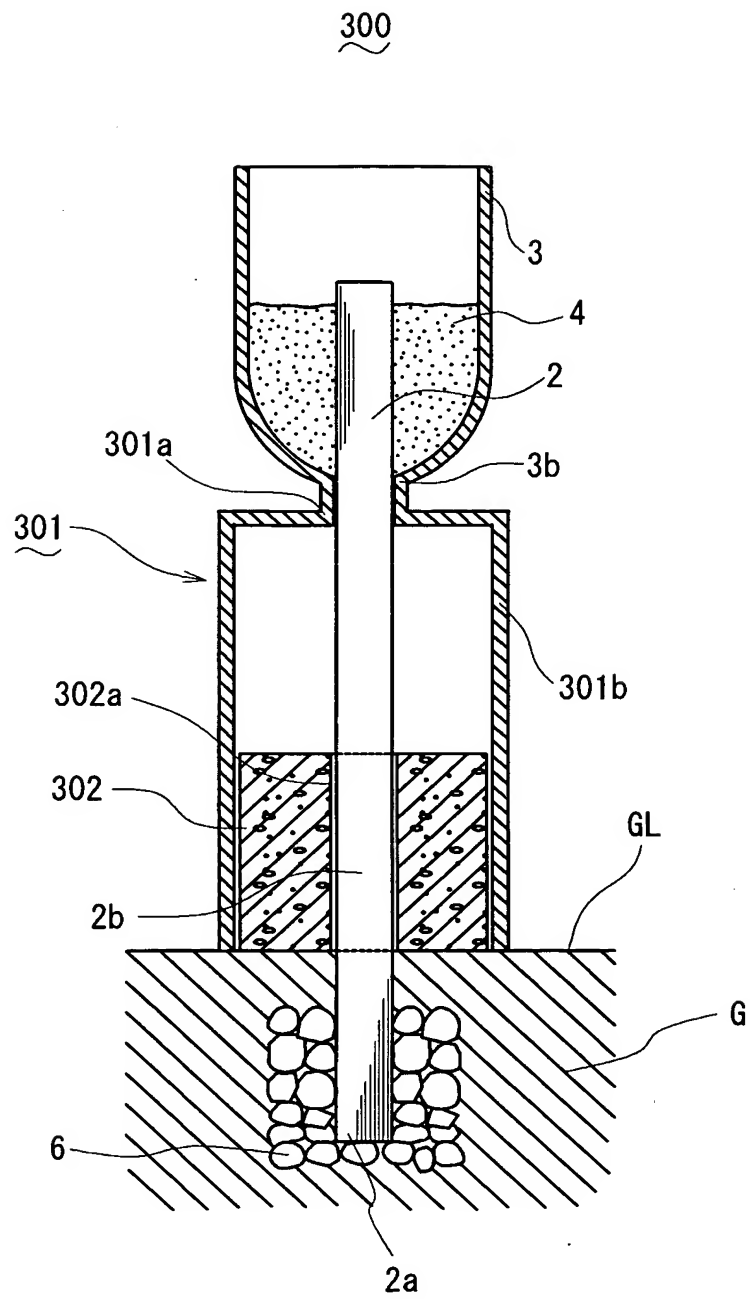
【図 11】



【図 12】



【図 13】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 植木鉢を収納する花飾用部材において、転倒を防止すると共に、美観の向上を図る。

【解決手段】 下部 2 a が地中 G に埋設され、地面 G L より上方に向けて立設された支持柱 2 と、支持柱 2 が貫通する貫通口 3 b を有する壺状の花飾部本体 3 と、花飾部本体 3 に貫通された支持柱 2 の周囲に充填された充填材 4 とを備え、花飾部本体 3 の上端部の開口 3 a に植木鉢 8 を収納する。花飾部本体 3 は、支持柱 2、充填材 4 によって立設支持され、横揺れ転倒が防止される。また、花飾部本体 3 は、その全体が地上に露出しているので、花飾用部材 1 の美観が向上する。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 6 3 4 4 8
受付番号	5 0 3 0 0 3 8 5 4 3 3
書類名	特許願
担当官	小島 えみ子 2 1 8 2
作成日	平成 1 5 年 4 月 2 5 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成15年 3月10日
-------	-------------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 6 3 4 4 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 0 0 0 4 2 8 2]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 9 月 2 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府茨木市春日 4 丁目 5 番 1 1 号
氏 名	伊藤 孝己